

保護者各位

えんだより

平成30年10月9日(火)

早良幼稚園

園長 小林 裕子

秋たけなわの候、保護者の皆様におかれましてはますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

先月行いました運動会におきましては、新園舎完成後の新しい園庭でしたが、皆様のご協力のおかげさまで無事終わりましたこと、御礼申し上げます。

運動会当日は、夜明け前に降った雨で、園庭に水たまりができましたが、始まるまでに何とか整備が終わり、開始することができました。そのときに活躍したのが、「吸水ぞうきん」でした。大変吸水力に優れており、大量の水分を吸水して、すばやく水たまりを無くしてくれます。

先週のことですが、年長児が朝の自由遊びの時間にリレーごっこをしていました。しかし、トラックのコース上に水たまりがあり、子どもたちが大回りして走っていらしたので、吸水ぞうきんとバケツを持って園庭に出たところ、子どもたちがたちまち寄ってきて、「それなーに？」と興味津々。リレーはそっちのけで、吸水作戦が始まりました。

なぜ、子どもたちが、大好きなリレーごっこを中断してまでも、吸水作業に夢中になったのか、考えてみました。元々子どもって水遊びが大好きですが、おもしろいように水を吸い込む「ぞうきん」というものに出会ったのが、好奇心のスイッチを押したのだと思います。また、布が柔らかく、とても絞りやすいので、吸い込んだ水の量が多いほど、絞った時に出てくる水の量も多く、「やればできる」という効力感につながっていったのだと思います。



何しろ初めての経験で、吸い込んだぞうきんをバケツまで運ぶあいだに、ぞうきんから落ちる泥水が周りに飛び散り、見ている私は「キャー」って飛び退きましたが、誰一人、そんなことはお構いなしで、夢中になっていました。そのうち、低い位置でぞうきんを絞ったり、バケツに水がたまったら、自分たちで「これ、どこに捨てるの？」と言いながら洗い場に運ぶ姿が見られました。「やらされている」



ことでないと、こんなに知恵も出て、喜びも生まれるのかと、子どもたちから教えられました。

ひとつ驚いたのは、ぞうきんの絞り方を知らない子が多いことでした。先生から絞り方を教えてもらい、それも良き経験になったと思います。興味があるときに、学ぶことって、大事であることを改めて学んだ出来事でした。